



彼岸花

Yamamoto Acc office



山本総合会計ニュース

編集発行人
税理士

山本孝久

〒152-0003
東京都目黒区碑文谷5-12-1
TS碑文谷ビル2F
TEL 03 (3791) 8863
FAX 03 (3791) 8292

9月

(長月) SEPTEMBER

19日・敬老の日
22日・秋分の日

日	・	11	25
月	・	12	26
火	・	13	27
水	・	14	28
木	1	15	29
金	2	16	30
土	3	17	・
日	4	18	・
月	5	19	・
火	6	20	・
水	7	21	・
木	8	22	・
金	9	23	・
土	10	24	・

9月の税務と労務

国 税／8月分源泉所得税の納付

9月12日

国 税／7月決算法人の確定申告(法人税・消費税等)

9月30日

国 税／1月決算法人の中間申告

9月30日

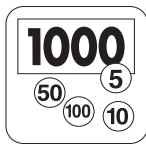
国 税／10月、1月、4月決算法人の消費税等の中間申告(年3回の場合)

9月30日



ワンポイント 利益相反(そうはん)取引

取締役が自己又は第三者のために会社に対して、不動産を過大な金額で売却したり、過大な利息で金銭を貸し付ける取引のように、取締役と会社の利益が相反する取引。この取引に該当する(恐れがある)場合は、取締役会(取締役会が設置されていない会社では株主総会)での事前承認が必要になります。



老後の様々なリスク



9月19日は敬老の日です。そこで老後のリスクについて考えたいと思います。

貧困のリスク

「老後破産」という言葉があります。使い方はメディアなどによって様々ですが、一般的には収入より支出のほうが多くなり、貯蓄や年金だけでは生活できない状態の高齢者のことをいいます。

リタイアをしてから日々の生活に夫婦で毎月25万円かかるとすると、年間で300万円の生活費が必要になります。これを年金と貯蓄で賄えればいいのですが、長引く不況の影響で、充分な蓄えができていない人が増えているようです。また医療技術の進歩によって、90歳や100歳近くまで生きる人も増えています。そうなると当然に老後に必要な資金も増えることになります。受け取ることができる年金の金額によっても違いますが、65歳の時点で3,000万円の貯蓄があっても老後資金は不足するという試算もあるようです。

老後の生活資金の原資として、老齢年金があります。老齢年金には、老齢基礎年金と老齢厚生年金があります。老齢基礎年金は、国民年金に加入していた人に対して原則65歳から支給が開始されます。一方の老齢厚生年金は、厚生年金に加

入していた人に支給されますが、現役のときの報酬の平均額や加入期間に応じて計算された金額が支給されます。つまり老齢年金の支給額は、加入している年金の種類や現役のときの報酬額によって変わることになります。

介護のリスク

厚生労働省によると、600万人以上の方が介護認定を受けています。また年齢別に介護保険の受給者数をみても、75歳～79歳では受給者は約10%だったのが80歳～84歳では20%以上あり倍増しています。さらに90歳以上になると50%以上の人が介護給付を受けています。

家族の誰かが介護状態になった場合、仕事を休んだり辞めたりしなければならなくなるというリスクがあります。育児・介護休業法によって、家族が要介護状態になったとき、労働者は93日を上限として介護休業を取得することができます。雇用保険によって、介護休業中の賃金の代わりに介護休業給付を受け取ることができます。

超高齢社会に向かっている中、今後増えていくことが予想されるのが「老老介護」です。老老介護とは、高齢者が高齢者を介護することをいいます。核家族化が進み、老夫婦二人暮らし

という世帯も多くあります。2013年現在65歳以上の高齢者のみの世帯は、全世帯のうち約23%あるようです。老老介護の場合、要介護者だけでなく介護をする人も高齢者なので、その分介護の負担は大きくなります。介護に追われて社会との関わりが薄くなり、介護をする人自身が認知症になるという問題も起こっています。

健康のリスク

高齢になると病気やケガのリスクは高まります。病気やケガによって高額の治療費がかかるようになります。厚生労働省の統計によると、60代から80代の死亡原因となった病気の第1位は悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患、第4位が肺炎でした。また医療の進歩によって過去には治らなかった病気が治療できることもあります。脳卒中を患ったあと元の通りに戻らず、後遺症や寝たきりになってしまうこともあります。そのため、三大疾病である「がん」「脳卒中」「心筋梗塞」に対応できる医療保険への加入は必要でしょう。

このように老後には様々なリスクがあります。自分自身はもちろんのこと、社員に起こりうるリスクについても、今後は準備が必要になると思われます。

ヒートアイランド現象

都市の気温がその周辺にある郊外の自然地域よりも高くなる現象を、ヒートアイランド現象といいます。気温の分布図をみると、高温の地域が島のような形状に分布していることから、このように呼ばれています。

気温が30℃を超えた延べ時間数をみると、1980年には東京で168時間だったのが2000年には357時間と、倍以上に増加しています。ヒートアイランド現象の要因としては、①土地の利用方法の変化、②建築物の高層化、③人工排熱の影響の3つが考えられています。

都市部では、アスファルトやコンクリートで覆われている部分が多くあります。一方、郊外には森林や水田などが多く、アスファルトやコンクリートで覆われている部分は都市部に比べて少なくなっています。森林や水田などは水分を多く含んでいます。その水分が蒸発すると熱が奪われて、地表面の温度が下がります。逆にアスファルトやコンクリートは水分が少ないので、地表面の温度があまり下がりません。したがって都市部では、地表面から大気に熱が供給される状態にあるため、気温が上昇することになります。

日光が地面で反射された反射光や地面から大気に放出される赤外線の一部は、建築物が吸収します。高層ビルが多くある都市部では、吸収される反射光や赤外線の量も多くなります。日中



に蓄積された熱が夜間に放出されるため、夜間でも気温が下がりにくい状態が続きます。また高層建築物があることで、海風などの冷涼な風が流れにくい状態になり、やはり気温が下がりにくい状態になります。

都市部は郊外に比べて人口が集中しています。人口が集中するところでは産業活動や社会活動によって多くのエネルギーが消費されています。エネルギーが消費されるとそれに伴って建物や自動車などから多くの熱が排出されます。

ヒートアイランド対策

ヒートアイランドに対して、環境省では平成20年度にヒートアイランド対策ガイドラインを策定し、平成24年度にはその改訂版を出しています。

改訂版のガイドラインによると、ヒートアイランド対策は、ヒートアイランドの原因を削減する「緩和策」と、ヒートアイランドによ

って熱中症や睡眠阻害などといった健康への影響を軽減する「適応策」の両面から進められています。

緩和策については、街路樹の活用や駐車場・屋上などの緑化、舗装や建物被覆の保水化といった対策が進められています。例えば東京都では、平成13年度から16年度にかけて都内の道路のうち約4kmに保水性舗装を施工しました。この舗装によって日中の最も暑い時間帯で路面温度を約10℃下げる効果を確認しています。

また名古屋市では、緑化地域制度という敷地の緑化を推進する制度があり、一定規模以上の敷地面積があるところで建築行為を行う際には、10～20%の範囲で緑化が義務付けられています。

適応策としては、効果的な熱ストレスの軽減を行うことで、熱中症リスクや睡眠阻害の低減につなげています。具体的には、駅前広場や主要な歩道などの人通りの多い場所について調査を行い、対策の効果が高いと思われる場所を特定したり、今まで商業地域で多く実施されてきた対策を住宅地にも取り入れたりと進められています。また熱中症予防については個々人の行動でも行うことができますので、環境省では熱中症予防情報を提供しています。夏場の軽装や日傘の使用、信号待ちなどでは日陰を選ぶなど、小さなことから熱中症予防に心がけたいものです。

オノマトペ

「ワンワン」や「ニコニコ」など、物事の音や様子などを表す言葉を、オノマトペといいます。オノマトペは擬音語と擬態語の総称です。

擬音語とは、物などが発する音や動物などが発する声を字句で表したものです。ニワトリが「コケッココ」と鳴くことやガラスが「ガチャ」と割れる音などが、これに当たります。それに対して擬態語は、音がしない物の様子や心の動きなどを音にしたものです。会場が「シーン」とするや心が「ワクワク」とするといった言葉が擬態語です。これらの言葉は、様々な物事を端的に表現するのにとても便利な言葉です。

日本語にはオノマトペが多くあり、「日本語オノマトペ辞典」には4,500語のオノマトペが掲載されています。古くには古事記や万葉集にもオノマトペが使われており、日本語の歴史とオノマトペは密接な関

係があるといえます。日本でオノマトペが発達したのは、日本語が「わび」「さび」などといった深い情感を表す語を好む特質があるからようです。

オノマトペには、その地方独自のものが多くあるようです。いわゆるオノマトペの方言です。例えば息切れや軽い呼吸困難の状態を東北地方では「はかはか」と言ったり、とめどなく流れる様子を沖縄では「そうそう」と言ったりするそうです。

日本スポーツ心理学会では、体育やスポーツ指導でオノマトペを活用する方法について報告されています。腰を落として「グッ」と押すといった運動の「コツ」を表現する際に使われることが多く、選手と指導者とのコミュニケーションが良くなったり、選手が指導内容を理解しやすくなるなどの効果があるようです。

参照：オノマトペラボHP

(小野正弘 明治大学教授)

ミニマリスト

必要最小限なものだけで暮らす人を「ミニマリスト」といいます。最小限のという意味の「ミニマル」からできた言葉のようです。二〇一〇年頃から海外で言われるようになり、今では日本でも広まりつつあります。

ミニマリストには、大きく三つのタイプがあるようです。一つ目は、モノを極限まで持たない極限派で、ミニマリストという言葉が使われる前から存在していました。生活の無駄を徹底的に削減した人たちを指します。二つ目は自分の気に入ったものを厳選して持つ、シンプルライフ派です。気に入ったものだけで暮らすことから、女性に多い傾向があります。三つ目は必要な物を買ひ、要らなくなったらすぐに捨てる正統派と呼ばれるミニマリストです。シンプルで上質な生活をすることを目的としています。

スタートアップ

新しいビジネスモデルを開発するという意味の言葉に「スタートアップ」があります。日本では、「ベンチャー企業」という言葉が使われてきましたが、スタートアップとベンチャー企業は少し意味合いが違うようです。

そもそもベンチャー企業という言葉は日本人が作った言葉で、英語圏でVentureというVenture Capitalという投資する企業や人のことを表します。

スタートアップは、新しいビジネスモデルを開発する企業や事業のことですが、短期間で急成長を成し遂げて、上場や株式売却を狙うという特徴があります。日本でも有名なGoogleやFacebookは、代表的なスタートアップです。日本でも類似のベンチャー企業は、数多く起業されていますが、比較的安定した収益と長期成長を目指すものが多く、スタートアップと呼べるものは少ないようです。